

中学校区で、中学校在籍の学力向上特配（A教諭、B教諭）を小学校で活用している例（小学校における専門的教科指導）

校名	館林市立第八小学校									館林市立多々良中学校					館林市立第十小学校										
学級数	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	学年	1	2	3	特支	計	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	
	学級数	2	3	2	3	2	3	2	17	学級数	5	4	4	2	15	学級数	3	4	3	3	3	3	3	3	22
特配教員活用状況	A教諭（多々良中置籍 週20時間）																								
	○6年算数（毎日1時間、週5時間） （習熟度別少人数指導4コースのうちの1コースを担当）														○6年算数（毎日1時間、週5時間） （習熟度別少人数指導の1コースを担当）										
										○1年の数学授業 4時間×2学級、 2時間×1学級（TT） 計 週10時間															
										○1年副担					発展的な学習を積極的に取り入れている。 （算数主任を窓口として情報交換）										
成 果	B教諭（多々良中置籍 週19.4時間）																								
	○6年外国語活動 （毎週金曜日、週1時間×3学級）														○6年外国語活動 （毎週木曜日、週1時間×3学級）										
	○学級担任・ALTとの3人によるTT									○1年の英語授業 4時間×2学級 2時間×1学級															
										○1年担任 道徳1学活1総合1.4					○学級担任・ALTとの3人によるTT （毎週火曜日の放課後に打合せをもつ） 学特、外国語活動主任、担任、ALTで										
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教員の専門性を生かした指導法の紹介や支援を受けることができる。 ○中学校教員に、6年生の児童の実態（学力面・生徒指導面）をよく理解してもらうことができる。 ○中学校教員からの視点で、気になる児童へ指導や支援、助言なども、小学校教員と連携して適切な指導を行っているため、中学校進学後の「中1ギャップ」の軽減につながると期待される。 ○学級担任が中学校教員の授業を参観することができ、小学校教員の指導力の向上につながっている。 ○特配教員が多々良中・八小・十小で指導していることで、3校における有意義な情報が互いに入手でき、今後に活用できる。 ○プロジェクター活用の工夫や、板書の工夫など、特配教員から学べるアイデアがあった。 ○英語の専門家である特配教員から、学級担任が英語活動における指導のヒントを多く学べている。 ○中学校教員とALTで、会話のデモンストレーションを行う場面は、発音などがすばらしく、児童のよい手本となっており、英語を話したり聞いたりすることで児童の興味・関心が高まっている。 ○英語活動の授業に3人の指導者がいるため、児童が会話を行う場面やメインアクティビティの活動場面において、個別の支援をきめ細かく行うことができる。 ○日本語があまり理解できないALTとのTTの授業においても、中学校の英語教員が担任をフォローをすることができる。そのため、担任は安心して英語活動の授業を行うことができている。 																								
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○授業の打合せや児童の授業中の様子の情報交換などの時間の確保が課題である。 ○外国語活動においては3人の役割の明確化が課題である。 																								